目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第４５号　2009年 12月　発行人：八幡和三郎　編集長：服部 尚彦　事務局長：吉田 博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

2010年　新年会開催の御案内

2010年新年会を1月16日（土）こまばエミナースにおいて下記の通り開催致します。

恒例の第一部講演会では、NHKのキャスターとして、また「その時歴史が動いた」「NHKスペシャル」のキャスター等で活躍中の松平定知氏をお招きして、新春に相応しいご高説を拝聴することと致しました。

今回は同じ早稲田の校友で、本会幹事の後藤克彦氏と親しい間柄というご縁もあり、特別に無理をお願いしたところ、多忙の中にも関わらず快諾を頂くことが出来ました。

松平氏からは多くの経験に裏打ちされた極めて興味深いお話が伺えるものと期待されます。御家族を含めて多数の会員皆様の御参加をお待ちしております。

特に、これまで会費を負担されながら何れの会合にも出席されなかった会員の皆様には、気楽に参加して多くの校友と知り合い、リタイアメント・ライフの充実を図る良い機会と思われます。受付では歓迎してお迎えする様に手配しておりますので、我々も最初はそうでしたが、思い切って顔を出して見るか、とのお気持ちで是非お出かけ下さい。

記

1. 日時　：　2010年1月16日（土）　16時開会
　　（受付開始　15時30分）
2. 会場　：　こまばエミナース（3階　鳳凰の間）
　　東京都目黒区大橋　2-19-5
　　電話：03-3485-1411
　　井の頭線駒場東大前駅、下北沢寄り
　　改札口から南方向へ徒歩7分
3. 講演会：　16時～17時
　　講師　：　松平定知氏
　　演題　：『その時歴史が動いた―取材ノート』

4. 講師　松平定知氏の略歴：

昭和44年早稲田大学卒。同年NHK入社。同年高知放送局。　昭和49年東京アナウンス室。平成19年11月定年退職。「連想ゲーム」「日本語再発見」など番組司会を経て、朝と夜の7時のTVニュースなど、ニュース畑を15年。「その時歴史が動いた」を9年。NHKスペシャルは100本以上。この他、昭和史報道、湾岸戦争、各種選挙開票速報、海外大型企画生中継など特番多数。現在早稲田・立教　大学院客員教授。ANA歴史大使。著書に、『歴史を「本当に」動かした戦国武将』（小学館・101新書）『松平定知が選ぶ「その時歴史が動いた」名場面30』（三笠書房）ほか多数。

なお、同氏は徳川家康の異父弟・久松定勝を祖父とする久松松平家の傍流の末裔とのことです。　また、松平氏は嘗ての「ミスターＮＨＫ」「一寸キザですが‥」で活躍された磯村尚徳キャスターとは従弟にあたる由であります。

5. 懇親会：　17時～19時
6. 会費等：　会費　8,000円（同伴家族5,000円）
　　当日会場受付にてお支払い下さい。
7. 送迎バス：当日会場まで以下の送迎バスを運行いたしますのでご利用下さい。
　　①目黒駅発　15時10分
　　ＪＲ東口、目黒通りみずほ銀行前付近
　　②中目黒駅発　15時20分
　　東横線東口、山手通り「TSUTAYA」前
8. 同封の返信用はがきを12月19日（土）までにご返送下さい。なお、送迎バスをご利用の方は葉書に利用バス番号、①または②と明記をお願い致します。

（島田　記）

各部会からの案内・報告

囲碁部会

『鵜野洋治氏初優勝』

第9回稲穂祭囲碁大会が早稲田大学学生会館で平成21年9月27日（日）に開催された。A～Hクラスに分けられ一クラス8名による個人戦が総勢64名の参加で行われた。鵜野一級（昭39年商）はHクラスの部で念願の初優勝を4戦全勝で勝ち抜いた。鵜野氏は2年前から春のオール早稲田囲碁祭や秋の稲穂祭囲碁大会に積極的に参加されていたが、この一年で急速に棋力をつけての栄冠である。今後は段位に向かって頑張って頂きたい思いで一杯である。

8月9日(日)杉並稲門会との対抗試合は各13名が参加して、チーム戦は2勝2敗であったが全体では14勝22敗であった。なかでも郡山弘文二段（昭27年商）が3戦全勝で一人気を吐いていた。

囲碁部会長　保井　正

麻雀部会

（1）　三区連合親善麻雀大会

8月22日（土）、渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて、第24回三区（目黒・渋谷・世田谷)連合麻雀大会が世田谷稲門会主催により開催されました。28名参加による親睦を深めた競技の結果、優勝は渋谷の藤原部会長（準優勝も渋谷）でした。一方、目黒も健闘しましたが惜しくも鈴木氏が3位、中村氏が4位の順位でした。

(2) 今後の大会予定

12月13日（土）12：30より、恒例の年末定例麻雀大会を武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて開催を予定しております(終了後は近くの中華料理店にて忘年会)。また新年第一回の定例麻雀大会は2月14日(日)を予定しております。皆様奮ってご参加ください。

麻雀部会長　松尾洋一

若木会

若木会は10月17日（土）に新そば会を更科堀井・麻布本店で開催いたしました。

参加者は、若木会から4名（中西、笠谷、尾崎、石川の各氏）でした。　また、他区からの参加者も5名（世田谷から1名、新宿から3名、板橋から1名）が加わりました。　丁寧なご説明も加わり、盛り上がりました。

■次回クリスマスパーティは、会場となる中西さんのご都合により12月19日（土）夜から、12月12日(土)に変更となりました。

なお、若木会の現状を以下に御報告します。

■このところ、近隣区からの参加者が増えてきています。地元稲門会に所属して幹事等をされておられる方もありますが、多くは稲門会未所属ないし、馴染めなくて退会された方です。オープンに集えることは目黒若木会にとっても喜ばしいことではありますし、城南地域の若手の中心として発展していくのは本望ではあります。

一方、地元に入会しようとしたが若手があまりにも少なく馴染めなかった等の理由で定期的に目黒に参加されている方もあります。このあたりを各地の稲門会全体が抱えるであろう若手の輪をどのような方向で進めるかは検討課題であると感じております。

■また、若木会に参加される方の多くは、先輩方と同席することに全く抵抗がないようですので、今後できれば「心の若手会」の比率を増やして参りたいと考えております。

若木会幹事　石川智子

美術・歴史鑑賞部会

『第26回部会は“懐かしき日本の原風景「向井潤吉展」”を見ながら美術の秋を楽しみました』

10月27日台風が去った秋晴れの天気の中、21名のメンバーで笠間へのバスでの美術・歴史鑑賞旅行が目黒駅からスタート。最初に「笠間日動美術館」で企画展「向井潤吉展」、野外彫刻園を見て「フランス館」、「日本・アメリカ館」を鑑賞。「有名画家のパレット展」等とコーヒー・ブレイクを含めて約1時間と短い間の鑑賞後は、笠間の特産品蕎麦での昼食。笠間市長から差し入れ「お稲荷さん」をおみやげにいただきました。

時間調整の間に笠間稲荷神社の見学、菊祭り中でした。浄土真宗の宗祖・親鸞聖人が恵信尼公と共に、二十年の間在住し、教行信証を書かれた宗門の聖地「西念寺」での説明付き見学。葉に実が付いている、天然記念物「お葉つき銀杏」に驚きながら「陶芸美術館」へと、少し忙しい感じでしたが、天気に恵まれた秋の一日でした。

是非、次回は時間をかけて「文化・芸術の街笠間」を楽しんで下さい。秋と春の連休には、笠間焼「陶炎祭」、世界で唯一の合気道の「合気神社」、特産としては日本酒、常陸秋そば、栗等々。上野駅から常磐線・特急1時間で、楽しい一日を感じることができる街です。

美術・歴史鑑賞部会長　後藤克彦

俳句部会

10月の「萩句会」は下記のとおり、予定通りに開催いたしました。開催に先立ち、日比谷の帝劇ビル9階で開催中の「芭蕉展」を有志で見学し芭蕉の真筆に触れ、特に出羽三山の句に感動いたしました。

第十回「萩句会」報告　（順不同）

日時：　10月16日（金）14時～17時

場所：　下目黒住区センター会議室

安藤虎雄　秋刀魚焼く匂ひにくぐる赤暖簾

梶　恵作　台風の外れし夜の水桃浮かす

川井素山　秋深し呟きくぐる縄のれん

桑野祐峰　飛び交ひて蝶さまざまの菊もとむ

紀本直幸　アラビアの赤き砂漠や月澄みぬ

保井寶正　ふるさとの屋敷の庭に虫時雨

米田文彦　秋深し白磁の壺に薄き影

相沢幹代　浮雲の芒に掃かれいるような

青木英男　万灯の花のあかりや幼き日

佐藤喜仙　秋深し風にめくれる白暖簾

なお、第一回の「俳句入門教室」に参加されなかった方々を対象に2010年4月より「第2回俳句入門教室」の開催を考えております。会員はもとよりですが是非家族の方々にも入会をお勧めください。詳細は次号会報でお知らせ申しあげます。

俳句部会長　佐藤喜孝

カラオケ部会

野分のあした愛犬と散歩に出掛ける

陽が眩しい、天高く澄みわたり爽やかで心浮き立ち、何となく口遊み度くなる気分にかられる。

アッ、そうだ、今日はカラオケの日だ・・・皆さんこの晴れ晴れとした朝の様に張り切って来られることでしょう。

新しい歌は次々とダム（カラオケ配信）に取り入れられて来るが、片や余りリクエストの少ない曲は、野分の塵埃を吹き飛ばしたように、忽然と消え去ってしまった。　心に留め置きたい青春の歌

昭和維新（青年将校）の歌　―　昭和5年

作詞・作曲　海軍少尉　三上　卓

（昭和7年の5.15事件、昭和11年の2.26事件）

青年将校により歌い継がれたと聞いている

青年日本の歌（原文のママ）

1. 汨羅（べきら）の渕に波騒ぎ
巫山（ふざん）の雲は乱れ飛ぶ
混濁（こんだく）の世に我れ立てば
義憤に燃えて血潮沸く

2. 権門上（かみ）に傲（おご）れども
国を憂うる誠なし
財閥富を誇れども
社稷（しゃしょく）を思う心なし

3. ああ人栄え国亡ぶ
盲（めしい）たる民　世に踊る
治乱興亡夢に似て
世は一局の碁なりけり

カラオケ部会長　海口昭治

旅行部会

『千葉房総の旅　道中記（速報）』

旅行部会として1年ぶりの旅を11月15、16日の両日に好天に恵まれ実施しました。

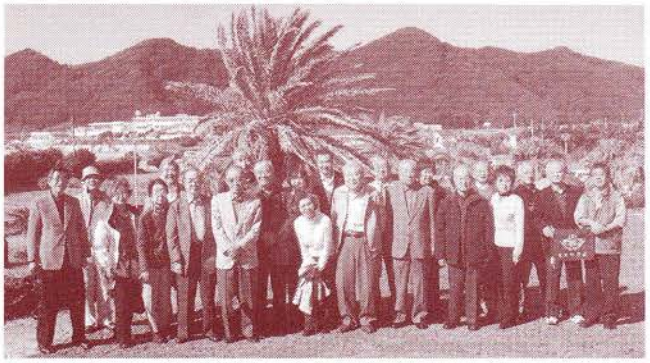
午前8時定刻に八幡会長以下23名が目黒駅東口に集合し、富士急バスにて出発。首都高からアクアライン経由千葉房総へ。途中海ホタルにて休憩し、順調に一番目の目的地養老渓谷着、粟又の滝見学。前日の雨でつるつる滑る中を滝底まで歩く。

次の目的地誕生寺へは行楽地渋滞により着予定が遅れるとの判断から昼食を先にとることとし、安房小湊で地魚磯料理の店うおまさにて舟盛り料理や、漁師料理の「なめろう」に舌鼓をうつ。午後の鯛の浦での遊覧船は強風の為欠航し、全員がっかり。誕生寺での時間をゆっくりとることとしました。午後2時誕生寺出発、九十九里浜を北上し、宿泊の蓮沼海浜公園内のリゾートホテルマリーノに4時着、夕食は6時開宴、地魚料理、牛肉の朴葉焼き、伊勢海老の土瓶蒸し等を堪能。余興として若者3人組によるビンゴ大会、食後のカラオケ大会に盛り上がる夜でした。

二日目　朝食後、8時15分ホテル出発、更に九十九里を北上し、犬吠埼灯台にて銚子観光船頭の会　山本さんらの出迎えを受け、銚子市の案内を頂く。犬吠埼駅よりお目当ての銚子電鉄乗車、車中これもボランティアの名物おばさんの案内に皆感心。下車後、創業400年のヒゲタ醤油工場の見学。昼食は漁港前のみうらにてイワシ料理三昧定食を堪能する。　食後、ウオッセ21にて最後の買い物タイム。午後2時銚子発、3時佐原より東関道に乗り、首都高での若干の渋滞はあったものの5時無事目黒駅から目黒通りでの各下車場所にて解散。

雨の続いたこの頃に二日間のみの晴れに恵まれ、魚料理三昧の旅でした。参加者の皆様の精進とご協力の結果と感謝致します。

旅行部会長　井村正陽



ウォーキング部会

第32回は9月22日に「鎌倉北の辺境の地にコスモスと彼岸花の中の守護神巡り」として、大船、常楽寺、多聞院、熊野神社、白山神社、散在ヶ池森林公園などを巡り、コスモス、彼岸花などを観賞し、大船駅界隈で反省会を開き感想を話し合った。　(写真参照)

第33回は10月17日に、「箱根の歴史散策のメインコース巡り」として出発をしたが、箱根湯本駅から箱根神社、同宝物殿、更に成川美術館を鑑賞したところで雨が本降りとなり、予定した旧街道杉並木、県立恩賜箱根公園、箱根関所資料館・箱根関所跡は又の機会に温存して、小田原の地魚で懇談して一日を終えた。

今後の活動は、本会報の発行準備期間中の11月18日に「神奈川県随一の紅葉の大山寺詣り」として、大山寺御開帳日に合わせて愛宕滝、良弁滝・開山堂、茶湯寺、阿夫利神社下社、大山寺（いろは楓紅葉）、八意思兼神社、和仲荘（豆腐料理で紅葉宴）など紅葉の丹沢近郊をウォーキングする。

12月、1月はお休みを頂いて、2月から新春の新たな企画を組んで御案内する予定である。

ウォーキング部会長　桑野祐光

ゴルフ部会

10月23日に第25回ゴルフ会を千葉県のカナリアガーデンカントリークラブに於いて行いました。

当部会最多の参加者33名で朝6時に目黒を出発、秋晴れの下、ワイワイとにぎやかにプレーしました。優勝は永田耕治氏、2位は松戸猛氏、3位は浅海敏之氏でした。

都立大駅前の<あっぱれ>で夕方7時半から開かれた表彰パーテイには26名が参加、早朝6時から始まったゴルフ会は夜9時過ぎに漸く散会となりました。みなさん、お疲れ様でした。また次回も宜しくお願い致します。

ゴルフ部会長　　大野利幸

グルメ部会

毎年恒例の新そば会を麻布十番の更科堀井(会員の堀井良造様が経営）で9月17日(木）および10月6日(火）の二回に分けて開催しました。合計36名が出席し、そばづくしのお料理と美味しいお酒を堪能しました。

『食は目黒にあり』を標榜するのがグルメ部会です。部会との表現をとっていますが、計画された催しに参加されるかた全てが部会員です。リーズナブルな値段で美味しいものを召し上がりたいかたのご参加を心よりお待ちいたしております。

グルメ部会長　海沼美智子

校友会便り

■　稲門祭盛大に開催

平成21年の稲門祭は10月18日（日）に盛大に開催され、好天気に恵まれた青空の下で大隈庭園の芝生では目黒稲門会の会員が輪を作って、アトラクション、歓談を楽しんだ。

■「東京都23区支部大会」―講演会・懇親会―

第Ⅰ部　講演会

1）日時：　2010年3月14日（日）
　　午後4時～午後5時
2）会場：　大隈小講堂
3）演題：『人工臓器最前線―早稲田の医療への挑戦』
4）講師：　梅津光生氏
　早稲田大学理工学術院教授　工学博士・医学博士
　早稲田大学　先端科学・健康医療融合研究機構

第Ⅱ部　懇親会

5）日時：　2010年3月14日（日）
　　午後5時30分～午後8時
6）会場：　リーガ・ロイヤルホテル東京
　　ロイヤル・ホール（3Ｆ）
7）出席者：　白井総長、校友会会長他
8）参加費：　8,000円
9）申込先：　目黒稲門会 事務局
10）締切日：　3月1日（日）　厳守

―目黒稲門会の皆様、多数のご参加を―

23区支部担当幹事　　大竹一子

会員の広場

『出羽三山吟行の記』

米田文彦（昭和41年　政経）

俳句部会の有志は、9月8日から2泊3日、羽黒山、月山、湯殿山を巡って来ました。日常生活から抜け出して自然に接し、新鮮な発想を得て句に生かそうというものです。

参加は部会長の佐藤喜孝氏、発案者の紀本直幸氏ほか総勢7名です。行程は東京9時、新潟経由で鶴岡に1時、タクシー15分で羽黒山麓の宿舎に到着しました。

芭蕉の"奥の細道"は出羽三山がもっとも重要な目的地だったと言われています。

俳句部会は発足してまだ1年弱、佐藤部会長は「こんな大きな吟行は皆さんまだ早い（実力からして・・）」ということでしたが、「まあいいじゃない」という意見が多数で、実行されました。宿舎は宿坊ですが、門前の民宿という感じでした。シーズンの合間らしく宿泊は我々だけです。到着してほどなく羽黒山頂の出羽三山神社参拝のため、石段2446段の登りです。少し心配でしたが、途中の杉並木（ミシュラングリーンガイドの三ツ星獲得）、みごとな五重塔（国宝）、少し降った「秋しぐれ」（「俳句の季語にありますよ」の声あり）、庄内平野の眺望、ところてん、等に誤魔化されて何とか到着です。下りはバス利用でした。石段踏破の認定証などを貰い、記念館では芭蕉の頃の宿泊小屋（藁葺き掘立小屋、「芭蕉たちは大変だったな」）を見学したりして、帰着しました。

夕食前には連句です。「歌仙を巻く」ともいい、皆が順番に五七五七七をつないでいきます。佐藤さんのご指導（捌くという）を受けつつ、五七五の発句以下、2番が七七を続ける、3番は関係あるように五七五を作る、と続けていくのです。初めてのことで、「疲れた、時間がない、難しそうだ・・」と予防線の中で開始。頭を捻りましたが、リードよろしきを得て仲々楽しく、半歌仙（十八句）を終了しました。俳句のルーツといわれるものだそうです。内容は省略しますが、「銭ないが時間たっぷり・・」「久遠の夢・・」と、流石に稲門会の方々、と拍手したくなるような言葉が出てきたことだけご報告いたします。

二日目は月山と湯殿山行き、チャーター車で廻ったのですが、月山は標高二千米、麓は快晴でしたが上は少し雨でした。8合目で休憩後、湯殿山へ。佐藤さんには時折「蕎麦の花が咲いていますね」などと、句作のヒントの声を掛けていただきました。

句会発表の句を紹介させていただきます。

佐藤喜孝　月山を下りて身近に蕎麦の花　（喜仙）
梶　恵作　月山の雲粛々と秋に入る　（恵作）
川井信義　稲穂垂る旅の終りや湯殿山　（素山）
桑野祐光　法螺貝や飛雲に埋もるる月の山　（祐峰）
紀本直幸　仰ぎ見る塔凛として秋の声　（直幸）
保井　正　羽黒山色なき風に吹かれけり　（寶正）
米田文彦　見渡せば粧ひ半ばの羽黒山　（文彦）

夜は秋茄子、枝豆、あけび、など豊富な山菜料理をいただき、お酒もいただき、宿のおかみさんには庄内おばこまで聴かせて貰いました。

最終日は陸羽西線、陸羽東線の普通列車で古川経由帰京しました。鳴子では温泉でゆっくりしてきた次第です。

新入会員

佐々木芳子　氏　　（昭和29年　教育）
趣味：読書、歌舞伎鑑賞、映画、音楽等々、俳句、連句、水墨画、ゴルフ、旅行、麻雀
（上目黒在住）
入会動機は、友人に勧められた事と少々ヒマが出来始めたので―。今まで地元とは疎遠でしたが、生まれ育った目黒でお仲間の輪に入れて頂けましたら幸いです。

影山信輝　氏　　（昭和37年　政経）
趣味：観劇（俳優加藤剛君と中学、高校、早稲田と一緒で今も交流が続いている関係もあり）。手塚仁雄君の会発足時から、メンバーで稲門会の方々からお誘いを頂きました。毎日新聞記者31年、関連会社に約8年主に新聞編集の仕事を"天職"としてまた、その後の今も編集者の仕事を週3回ほどのペースで関係しています。TBS-TVの「みのもんたの朝ズバッ！」の裏方仕事を隔週1回行っております。

会員の広場

『命、妻の死と臓器提供』(43号より続く)

浅海敏之（昭和34年　政経）

ハワイから2週間ぶりに戻ってきた。慣れた自分のベッドで休んだが、時差の関係から朝早く目がさめてしまった。朝刊を見ると、一面に大きく、皇太子妃雅子さまご懐妊の字が踊っていた。日本中が待ちに待ったおめでたのニュースにわいた。平成13年5月16日の朝でした。愛犬フレンチブルドックのゴンをつれて久しぶりの散歩に出かけ、うれしいのかリードをぐいぐい引っ張り力強く歩いた。

3～40分の散歩を終えて家に入ると、電話が早く出てよと言わんばかりになっていた。急いで受話器をとった。マウイ島○○病院の婦長のヨウコといいます。浅海雅子さんがマウイの海で溺れたらしく、意識不明で、人口呼吸器をつけていますが、重体です。大至急、家族の方に来てほしい。海で何をしていたのでしょうかと。魚を見るためツアーに参加、島から約1時間ぐらい船で沖に出て3人で海に入った。どのくらいたったか、妻が流されているのを見つけ、声をかけても動きなし、あおむけにして、SOS！HELP！と大きな声で友人が叫び救助された。人口呼吸をこころみ、救命艇で、救急車で、搬送されて入院されました。みんなが海の中だったし、妻がいつ頃からそうなったか、時間的にどの位そういう状態でいたか誰にも分からなかったと。頭の中は真っ白に。そんなばかな。昨日、島行きの空港で別れ、19日成田ですから、品川まで迎えに来てね。運転は雅子がするんだから、スピード出すなよ。安全運転だぞ。と車のことだけ注意をしたのだが。まさか海に入るとは思ってもみなかった。

それから電話が、奥様が大変なことになり、東京の友人から。何かお手伝いすることがあればとハワイから。頭は真っ白のまま、息子の賢大に連絡、会社があるから行けないが。長女の由夏子は運悪く、この4月に旦那の転勤で大阪に移転したばかり。泣きながらこれから新幹線で。次女恵美子（福島の郡山在住）は（3人目が8月に出産予定）大事な体、時期なので、旦那に連絡。10日ほど前のゴールデンウイークに郡山に来たばかりなので、うそでしょうと。こんな大事なことでウソを言うわけないでしょう。とにかく恵美子にショックにならないようにと。たのんだよ。すぐに主治医の石川先生に電話。どの位の時間、脳に酸素が行かなかったかが問題だが、うーんきびしいですね。ある程度覚悟してください。それを聞いて、立っていることが出来ない位、ショックだった。昨年息子も所帯をもち、さあ、これから2人で楽しもうと話していたのに。

一行は、僕、由夏子、友人の正田親子の4人。いずれの航空会社に断られたが、NOUTHWESTだけがビジネスでOK．機内で僕と娘の2人だけがタオルで顔をおおっていたので、異様な光景だった。ホノルルに着くと、呼び出された。コメントを貰い（血圧が下がっているから、大至急行ってくれと、息子から）、一番先に外に出してくれた。島行きの機内でも呼び出され出入り口の一番近い席に4人は座った。ここでも手配されているのにびっくりした。マウイ着。真っ先に、そこに女性が、ホテルの社長ですと挨拶され、急いでくださいと。5人で走った走った。止めてあった車に飛び乗り病院に。社長は日本人でいろいろ話しかけてくれたが、何を話したか覚えていない。病院着。走った。エレベターに、2階？3階？だったか。降りたら2列、警察、救急隊、船会社の人などなど沢山の人たちが並んで待っていた。その方々に挨拶をして病室に案内された。

そこには間違いなく妻が、多くの管が体中につき、沢山の機器とつながり、心電図のオレンジの波は乱れて上下に大きくぶれていた。同じ形の波は一度も出て来ない。手を握りながら、こんなところで、何をしているんだ？早く起きなさい。東京で皆が帰るのを待っているんだよ。お前の好きなゴンも。と、大きな声を出して呼びかけた。娘はきれいな花畑の方には行っては、いけないよ、早く起きて、一緒に帰ろうとさかんに呼びかけた。しかしスースーと寝ているのみ。全く反応はなし。シアトルから義妹夫妻、ニューヨークから義弟が相次いでかけつけてくれた。同じように目を覚ますようにと何度も声をかけてくれた。2人の友人も泣きながらごめんなさい、と、あやまってくれた。担当の先生と婦長のヨウコさんが見えて、通訳。発見された状況は分からないが、船の上でマッサージをしたときに、朝食と海水を戻した。人口呼吸器をつけて生命を維持しているが、血圧が不安定で昨日の脳の検査では脳死8のレベルです。午後にも再度の脳死の検査をしますが、レベル8から下がれば、治療は続けますが、もし8が変わらないか、それ以上に上がっていたら、治療は中止に。アメリカの法律では家族が治療の希望しても、医師の判断が優先されます。（そのことは本当なのかどうか調べてはいない）。午後、再び病室に。先生と婦長の説明を聞いた。8レベルは変化ありません。残念ですが、これ以上の治療はいたしません。そのため、明朝、警察医の司法解剖に（病死、事故死、他殺、自殺。）まわされます。死の宣告をされた。

覚悟はしていたが、押さえていた気がゆるみ、涙がどうっと出てきてしまった。泣きながら、俺と

結婚して素晴らしい3人の子供をさずかり、育ててくれて、有難う。君がいなくなり、俺はこれから、何のために生きるのか、どんな楽しみがあるのか？今は考えられない。むなしさ、悲しさは、一体なんなんだ。有難う。サヨウナラ。ひとりでつぶやいた。娘も、義妹夫妻も、義弟も、それぞれ別れの言葉をかけて病室を後にした。婦長さんに他の部屋に案内された。誰もが声をださず、ただ、泣いていた。それぞれがいろいろな思いを思い出しながら。

一人の医師をつれて婦長さんがみえた。お願いがあります。明日の朝6時に司法解剖が始まりますが、その前に雅子さんの臓器を提供して下さいませんか？と。突然の申し込みだった。誰一人そんな考えは持っていなかったので、びっくりした。アメリカでは臓器が不足しています。多くの病人が待ち望んでいます。頂けると大変にありがたいのですが。ぜひお願いいたしますと。希望の臓器は2つの角膜、2つの腎臓、肝臓、手足の大きな骨4本（1本の骨で50人が助かる）、アキレス腱。エ！骨？アキレス腱？日本では話題にもなっていないものに、また、驚いた。分かりました。相談いたしますので、時間を下さい。ひとつ伺いたいのですが。心臓はいらないのですか。日本ではいつも心臓移植が話題になっているので、なぜいらないのか、不思議だったので。浅海さん、今雅子さんは心臓にダメージがあり、人口呼吸器をつけています。ああ分かりました。心臓は使い物にならないのか。判断力もおちているなあ。食事も昨日の朝からほとんど口にしていないことに、気がついた。胃の中に何も入っていないのに、お腹はすいていない。ストレスは体には良くないとつくづく思った。集まっている家族の思いは一緒だった。司法解剖をすれば全ての肉体は死んでしまう、一部でも生き続けてくれるのなら、その上、人助けになるから、提供しましょうと。妻は本当に健康な人だった。病気はほとんどしていない。カゼをひいても一晩たつと、なおってしまい、床についたのはお産の時ぐらい。私の取り柄は丈夫なこと、と、いつも自慢をしていた。その丈夫な健康な臓器を生きつづけてもらおう。見知らぬ国で多くの方にお世話になり、ご迷惑をかけたし、提供しよう。雅子もこんな死に方は残念だっただろうから、一部でも生き続けてもらおう。東京の子供たちにも連絡して、了承してくれた。

再び二人が見えて、提供に同意します。有難うと喜んでくれた。雅子の体についてのアンケートに答えてほしい。質問は60位あっつたか。持病がありましたか。大病は？タバコは？お酒は？麻薬は？NO！ばかり。結婚は何度目？ONLY ONE.ご主人以外の男性とセクッスしてますか。ＯＨ！　ＮＯ！．ＹＥＳはひとつだけ、ＢＣＧの陽性になったことでした。再度病室に戻り、語りかけた。雅子に了解をとっていないが、君の臓器をハワイの人にプレゼントすることにしたよ。その人のために頑張って生き続けてくれよ。がんばれよ！泣きながら、本当につらい、つらい別れだった。17日朝6時、移植の手術が始まり、天国へ行ってしまった。

東京から長男賢大夫妻、弟の妻、島根出雲から義弟が来てくれた。2時から小さな教会を借りて、葬儀をおこなった。孫たちからの手紙、画、好きだったゴルフ用品などなどを。一人ひとりが花を入れ、別れの言葉をかけた。また、多くの一般ハワイの人たちが参列してくれた。朝刊に臓器提供をしてくれた日本人女性と大きく報道され、それを見た方がと、ホテルの社長が説明してくれた。見知らぬ人たちも、お参りをして我々にハグをして去って行った。

ハワイでの葬儀は終わった。骨拾いはない。ホテルに戻って帰る準備に。我々は最終便で離れる。飛行場に届けてもらった骨壷は、まだ熱くデパートの手提げの袋に入れられていた。ハワイの火葬は灰にするようで、骨壷はブックエンドの形だった。日本式の物はなく困ったが、サラダボールに似た木製の物に決めた。18,19日が土日で領事館が休みで、賢大夫妻を残し、19日にホノルルを離れた。雅子は5月6日に成田を出国しているので、帰国しないと行方不明となってしまう。そのため、20日の朝領事館でこの遺骨は雅子です、の、証明を貰って、成田に帰国。午後9時ごろ霧雨の降る中、賢大の胸に抱かれ無言の帰宅となった。

なお、二つの角膜は本国へ、二つの腎臓はホノルルの日系2人の男性に移植され、お礼の手紙を頂いた。30年近く人工透析をしていたのがなくなり、本当にＨＡＰＰＹ。もう一人は体に合わず、失敗に終わったと。他の臓器も多くの方に移植され、きっと頑張ってくれてることだろう。

（つづく）

≪事務局連絡≫

2009年目黒稲門会会員名簿を本会報と共に同封致しました。　会員各位におかれましては記載事項の確認をお願い致します。　また、変更・修正があれば事務局宛連絡をお願いします。

個人情報保護のため取扱いには十分ご留意願います。　事務局

リレー随筆

『僕と早稲田』

中西元樹（平成16年　法）

僕と早稲田の関係はとても深い。母・叔父に加えて祖父、その兄と弟も早稲田出身であり、さらに曽祖父も早稲田大学ではないが、早稲田実業高校で甲子園出場を果たしている。そのような話を幼少のころより聞いており、早稲田については浅からぬ縁を感じていた。

それでも子供のころの僕はいわゆる学級崩壊の原因となるほどの問題児であり、その当時における自身の学力を鑑みて、早稲田は夢のまた夢というようなとてつもなく雲の上の存在に感じていた。ただ、中学2年のときに英語検定試験3級を受け、1次試験を受かった後の2次試験会場が、同じ中学の仲間は最寄りの大学である駒沢大学であったが、僕だけは何故か早稲田大学で受けることになったときは冗談で早稲田に呼ばれているのかと感じた。無論その当時は努力もしていなかったし、大学すら行けると思えなかったし、まして早稲田などは考えも及ばないような状態であった。

高校時代もこの調子で、サッカーにかまけて成績もたいしたレベルには到達しないまま大学受験を迎えてしまった。もちろん早稲田も受けたが記念受験の感覚で当たり前のように不合格だった。さすがに悔しく思い浪人をしてリベンジを果たすべく小規模な予備校に入り、志望校を東大に絞って勉強を開始した。（自分の性格上目標に向かって努力してもどこかで手を抜く傾向があるため最高峰を目標に定めた）1年間、程よくがんばって受験に臨んだが、立教大学が受かったあたりで風邪を引いてしまい、万全の体制での受験が不可能になってしまった。そんななか体温39度近く出ている中、早稲田大学法学部の午前に受験した英語・国語は頭が真っ白になりながら解くこととなり、何を解いているのか全くわからない状態で、挙句、午後に受験した世界史に関しては論述以外まともに解けた気がしない有様だった。帰りがけに英語の解答速報が配られていたので受け取って帰ったが全く答えあわせをする気になれず、不貞寝することになった。教育学部も受けたが同様の状態で、社会学部にいたっては受験も出来なかった。最後に東大の試験を受けたが無論試験をまともに解ける筈もなく惨敗。ついに医者に診断してもらったら、肺炎になりかかっていて、外出禁止指令が出るほどの体調であった。

受験も一通り終わり、ふと早稲田法学部英語の答え合わせをしたところ、ほとんど満点。驚いてFAXで国語と世界史の解答をもらって採点したら国語もはほとんど満点で合格を確信。意気揚々と世界史を見たら半分に満たないほどの惨敗。教育学部は全科目がぼろぼろの始末。早稲田は法学部に淡い期待を持ちつつ合格発表を待った。そして合格発表の日、僕の体調は極限に悪くなり朝からダウン。10時に電話速報を聞いた母親が早稲田合格だと大騒ぎしていた。しかしその時の僕には何がなんだかわからず、なぜか母親に「おめでとう」と言ってまた寝てしまった。夕方ごろ目が覚めて、夢だろうなと思って自分で確認したところ合格は事実で、最悪のコンディションだったにも関わらず、最後には門戸を開いてくれた早稲田に運命を感じ、感謝した。そして今、校友の端くれとして先輩方の薫陶を受けることができるようになって幸せである。

事務局便り

『秋から冬へ（早慶戦も終りました）』

今年も余すところ2ヶ月です。秋の早慶戦は早稲田の惨敗に終わりました。慶應から勝点を取れば優勝という絶好のチャンスなのに、2連敗とは。結果4位に甘んじることになりました。

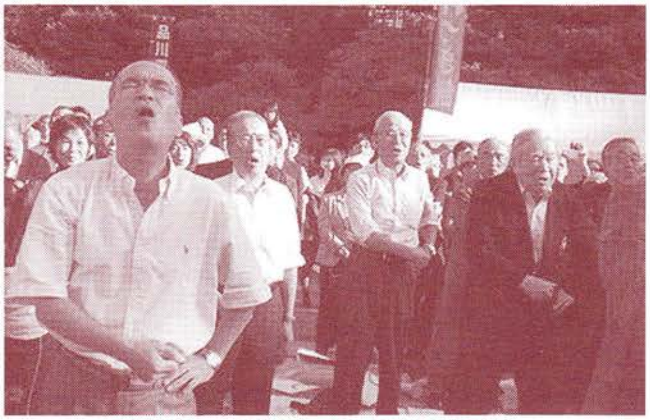
エース斉藤は打たれるは頼みの大石も打たれるは、キャッチャーは捕逸の連続、四球に死球の試合展開でした。それにしても貧打、ともかく打てない。最終回4番に代打、連続ヒットで3点。とき既に遅しの感はあったが、やっと見せた早稲田魂。自棄酒の味も少しは美味くなりました。

それでも、我ら応援部隊はめげることなく来シーズンの斉藤、大石の奮起を期待致しましょう。

早稲田スポーツは冬の陣、ラクビー・サッカー・箱根駅伝さらに冬季オリンピックと続きます。インフルエンザごときに負けている時ではありません。熱い応援を宜しくお願い致します。

目黒稲門会はすでに2010年新年会の準備に入っています。新春講演は「その時歴史は動いた」でご存知の元NHKアナウンサー“松平定知”氏をお招きしています。講演内容が楽しみです。新年会の詳細は本会報に掲載されておりますのでご確認下さい。

事務局長　吉田博行



稲門祭での校歌斉唱（稲垣会員提供）

ＨＰ便り

事務局への連絡はホームページから簡単に行えます。トップページの左端下部にある『お問い合せ』をクリックするとメール送信が出来ます。

（小杉　記）

編集後記

目黒稲門会の部会の分野は種々多彩に亘っており、活発な活動によって会員の充実した気力を高める役目を果たしています。

今後も、更なる分野に造詣の深い会員の力を借りて新しい部会の誕生を歓迎しており、この分野の部会を立ち上げ、共に楽しく趣味の一層の向上を目指す会員の方をお待ちしています。　（服部　記）